

# 動労水戸

## 国鉄水戸動力車労働組合

水戸市三の丸三・一・三

発行責任者 石井真一 編集者 西納岳史

電話 029-227-6020

FAX 029-227-6291

# 外注化絶対反対！エルダ！社員への雇用破壊と闘おう 再び仲間から隔離するな！

動労水戸・辻川慎 副委員長のエ  
ルダ！再雇用をめぐる闘いは、再雇  
用申込書の提出期限である3月末  
を経過して闘われている。JRは発  
足以来、辻川副委員長をはじめと  
する組合員を売店やそば屋に分散  
隔離してきた。エルダ！再雇用を期  
に再び組合員から一人だけ隔離し  
ようとしている。勝田から水戸、た  
った一駅であろうとこのような団結  
破壊を認めることはできない。

3月16日の団体交渉の場に出席  
した平成探の支社幹部たちは、動  
労水戸への不当配転の歴史を知ら  
ない。「(勝田→水戸の配転は)総合  
的判断でさしたる不利益もない」と  
繰り返す会社側に対し、辻川副委  
員長は厳しく諭した。

「あなた方に言っても分からないか  
もしれないが、動労水戸の初代委員  
長だった私を、支社は仕事もないの

に平駅(現いわき駅)に飛ばした。そ  
の後ほぼ屋や売店にへ22年間だ。  
最高裁で負けることが分かって勝田  
車両センターの検修に配属された  
のが52歳。その私に組合員たちが  
『辻川さんと一緒に仕事ができると  
思いませんでした』つて仕事を教え  
てくれた。ネジ・ボルトの締め緩めに  
至るまで、検修の仕事は全てに技術  
がある。それを52歳の素人の私が組  
合員の力を借りてやってきたんだ。  
私と組合員は兄弟親子と同じだ」

## 再雇用拒否＝解雇なら 動労水戸はととん争う

辻川副委員長はさらに続けた。  
「君たちは私と組合員を23年間も  
引き離して、最後の5年をまた一人  
にしているんだ。送けるな！  
今でも手紙のやり取りしている30年  
前の動労課長が『申し訳なかった』  
と言っている。君らは30年前と同じ

ことをやろうとしているんだ。水戸  
であっても組合員がいる検修部門な  
ら構わない。そうでないなら勝田に  
すべきだ。勝田車両センター所属の  
組合員のエルダ！4人のうち、なぜ  
私だけが違つのか説明する義務が  
あるだろう。私はエルダ！再雇用を



常磐線小高～浪江間通勤式三を弾劾する辻川副委員長(7月1日・浪江駅)

希望している。しかし、納得で  
きる説明がないなら絶対に判  
子は押さない。それで再雇用  
しないと云うなら解雇とい  
うことだ。ととん争うから賞  
悟しろ！」

支社は何も反論できない。さらに  
3月31日を過ぎても「解雇できない」  
ことをはつきりさせた上で「辻川慎  
への再提示は例外を作る」となり  
全体が壊れるのでできない」とい  
う会社側の本音を確認した。

## 社員扱いしなかったのは 会社の方ではないのか

3月23日には、支社人事課副課長・  
車両センター所長・副所長と辻川  
副委員長の面談が行われた。ここ  
でも会社側は「水戸でお願いしたい」と  
いう事実上の再提示を行った。「決  
して隔離などではない。社員として  
考えて欲しい」という発言を、辻川  
副委員長は怒りを込めて批判した。

「今あなたは『社員として』と言  
たが、22年間社員扱いしてこなか  
たのは会社ではないか。鉄道員なの  
にそば屋や売店。恨みはしていない  
が、子どもが小さい時『お父さんの  
仕事を聞かれても恥ずかしくて言  
えない』と言われたんだ。車両セン  
ターに来て『どうしても早く戻さな  
かった』と言った。それから今日に至  
るまで、私が仕事で手を抜いたこと  
がありますか？私の妻も今年で失  
業する。生活の不安もあるが、納  
得でき

ない』と合意する気はない」  
そして「勤務先を具体的に提示  
できるのが定年の1ヶ月前というなら  
8月に判断する。今合意する気持  
ちはない」と会社側に突きつけた。

## 制度のインチキ粉砕し 真実に基づき闘おう！

動労水戸の最年長世代がこれか  
ら定年を迎える中で、会社によるエ  
ルダ！再雇用制度のインチキが明  
らかになってきた。「外注化で先輩の  
行き先を確保する」と言ったのは誰  
なのか。経験を生かす行き先など  
もはやなくなっているし、そればかり  
か通勤不可能な遠距離出向が一方  
的に提示され、従わないなら再雇  
用を諦めるしかない不条理がま  
かり通っている。

そもそもエルダ！社員制度と出向  
は必ずしもセットである必要はない。  
しかし、会社はエルダ！社員を出向  
させる根拠が「出向4要件」(①人  
事交流②経営状況③技術移転④  
能力開発)のどれに該当するかすら  
まともに説明できないのだ。外注化  
を止めれば出向など不要になる。  
各組合幹部が自己保身で逃げ回  
っていることだけで成立しているイン  
チキなのである。

動労水戸には30年にわたって守  
り抜き勝利してきた団結がある。  
私たちはこの団結を新しい世代に引  
き継いで欲しいと切に願っている。真  
実に基づき、共に闘おう！